

帶 広 市 文 化 賞
帶 広 市 文 化 奨 励 賞
帶 広 市 功 勞 者
帶 広 市 教 職 員 功 勞 者

受 賞 者 紹 介

帯広市文化賞

「酪農事典編集委員会」

設立 40年10月 解散 42年7月（出版後直ちに解散）

■本市農業の中核となるべき酪農が産業経済面ではもちろん市民生活との結びつきを年々強めつつあり、指導者の大量養成及び経営の高度化が叫ばれている今日、本格的な酪農専門の事典の編集を行ない、指導の基礎資料を集大成し、定着させ、帯広一十勝における酪農の教育及び研究・指導及び実践活動に指針を与え、郷土の酪農業振興に寄与した功績が顕著である。

■酪農事典は、農業高校生及び一般市民も十分利用し得る酪農関係の広範囲な知識が集録されており、帯広一十勝を中心とする酪農関係者の多くに利用され、全国的にも関係者の間で高く評価されているものである。

◇40年10月帯広畜産大学教授8名を以て編集委員会を組織。

執筆者44名（畜産大学教授・助教授・講師・助手）

42年7月10日初版発行（著作者＝酪農事典編集委員会 発行所＝東京都千代田区三崎町明文書房 A6版 651頁 定価 3,200円）

発行部数 2,000部（42年7月初版1,000部 第2版 500部 43年6月 300部 44年1月 200部）

販売部数 約 1,500部

帯広市文化奨励賞

「萌 木 会」

設 立 25年4月

■家庭の主婦の芸術活動—特に日本画の創作という困難な分野を開拓していき、会員の中から道展会員及び道展入選者を出し、会員全体の創作活動のレベルも高まるに至った。

■特に最近においては講習会を年3回開き、若手の人の参加も求めて、日本画創作を志す人たちの増加のための働きかけを行ない、帯広市民劇場などでも積極的に市民への発表活動を行なっており、市民の美術振興に尽した。

◇25年・会の前身として公民館主催による「色紙を書く会」（5～6名参加）発足

28年・帯広婦人会サークル活動グループとしての萌木会と改称、本格的な日本画創作活動に取り組み、帯広婦人会の物心両面にわたる援助により発展した。高木黄史氏を迎え年2回講習会を開催。

30年・この年以降、毎年平原社美術展、その他の美術展に参加。

35年・道展に会員の一人小林満枝氏が初入選。年3回程度講習会を開くに至る。

39年・会員榊原梅子氏、宮谷秀世氏道展入選（この年以降連続入選）小林満枝氏道展奨励賞を受ける。

40年・会員吉村きく氏道展入選。榊原梅子氏朝日賞受賞。

41年・小林満枝氏道展会友となる。

42年・ “ 道展会友賞を受ける。

43年・ “ 道展会員となる。吉村きく氏道展入選。帯広市民劇場公演として第1回萌木会展開催。

44年・現在会員25名。高木黄史氏を迎え年3回講習会を開き、若手の人の参加を求め、活発な活動を行なっている。家庭の主婦（20代から60代まで）が大半。男性会員1名。